

## 問題行動へのアプローチ

### 学習の問題

Q.

こだわりの強い子どもについて。特に書字に課題があり、本人が「マス目じゃないと書くことができない」と思っている。しかしながら、よく観察していると、課題そのもののイライラを「マス目がない」ことにつけていのように見える。マス目については、原稿用紙を使用できるようにしたり、書字そのものについてはPCを使用できるように環境調整をしている。

環境調整をしても、課題そのものに対するイライラがあるようなので、課題にとりくめない。現状について保護者の理解もあまりないため保護者にどう説明したらよいか。また、このような課題のある子どものための、適切な教育教材があれば知りたい。

A.

マス目へのこだわりとみえる行動ですが、丁寧に前後の関係もみていただくことで、課題そのものがわからなくてイライラしているのではないかと・・・という気づきを得ておられ、すばらしいです。

マス目へのこだわりは、ストレスが高まっていることの現れなのかもしれない、という認識を支援する人々がもっていることは大切ですね。

まずは書字の分量を減らしたり、小分けにすること、その都度ごとにご褒美を設定することを考えてもよいかもかもしれません。また、書字の内容を簡単なものから始め、苦手意識の強い字はどんなものかを確認するとよいですね。ぜひお子さんの思いや考えをきいて、相談しながら、やりやすい方法を新たに見つけていっていいかもしれませんね。

## 離席・教室からの飛び出し

Q.

複数クラスから、教室を飛び出す生徒がおり、結果的に廊下で集まりしゃべったり騒いだりして過ごして今います。このような時、行動分析ではどのように対応しますか。

A.

このような時もまずは丁寧な観察からはじめます。どの時間、何の授業、誰が一番に、どこへ向かって、それを受けて誰がどんなふうに飛び出してくるのか。集まりだすと連鎖反応になってきますから、その流れは大きくなり止めにくくなると思います。

参集してくることで、集団の問題にみえますが、飛び出した個人には、その場を離れようとしたそれぞれのきっかけがあると思います。例えば、その場を離れる必要のあった子どもが、環境調整されることにより、それぞれに決められた場所へ移動し、落ち着き、また戻ることができるならば、廊下でも集まることもなくなってくるかもしれません。

が、現状、廊下への飛び出しがあるので、たくさんの生徒が巻き込まれることになってしまいますね。 集団の課題にみえるものは、その現象自体も前後の流れをよくみていくと、解決の糸口がみえてくることと思います。連鎖が起こりにくい工夫ということも考えてみるとよいと思います。

Q.

目を離すとどこかへ行ってしまう。外に飛び出す子に対してどう対応すればよいでしょうか。

A.

まず、なぜ出て行くのかをよく観察することから始めます。何かその子の苦手な状況（不快となる刺激・大きな音など）がありませんか。ある場合には、不快な状況に対してどう対応するか前もって準備することが大切です。

また、部屋を出たいときのルールを決めておくことも一つの方法です。黙って飛び出すのではなく、たとえば、“2つのことを先生にいいましょう。「①部屋をでてもいいですか？」「②〇〇にいきます」”というルールを決めておき、そのルールを守れたら部屋を出てもよいことにしておきます。

その他、本人が不得手な状況に対して、いきなり接するとパニックになるかもしれません。見通しが立てられやすいようにスケジュールを前もって伝えておくことや教室内に本児が落ち着くことができるスペースを用意しておくこと、いったんその場を離れて落ち着いてから部屋に戻るといったカムダウンも方法として考えられます。

## 騒ぐ・攻撃

Q.

小学3年生男児です。授業中、関係のない話をしたり、騒いだりしてしまいます。理由としては、勉強が難しかったり、他に気になることがあったりするようです。大人からの反応を求めているようなところも見受けられます。この場合、どう対応したらいいのでしょうか？

A.

①大人からの反応を求めている場合・・・

困った行動に対して声かけをすることが逆効果になることがあります。騒いでいないときに注目する対応が基本となります。また、本人が頑張っているにもかかわらず周囲が注目する機会が少なくなっているいませんか。すでに出来ていることでも、“当たり前”ととらえずに積極的に評価してあげたりするとよいです。

②課題が難しかったり、課題に飽きてしまったりした場合・・・

本人にとって課題が難しすぎるようであれば、別の課題を用意する、課題をスモールステップに分ける、わかりやすい指示を出す、気持ちを切り替えるきっかけを作っておける（例：プリント配布を手伝ってもらするなど）などの手立てが考えられます。

③他に注意がそれてしまっている場合・・・

今すべきことへ注意を向かせる。今何をすべきか、具体的に伝えてあげましょう。何をどこまで、いつまでするか、視覚情報（イラストや実演など）を用いて伝えるのもよいです。余分な刺激を取り除くことが大切です。

Q.

他児に対するひっかき・ものを投げるといった攻撃があります。本児は悪気があつてしているわけではないので、どのようにアプローチしたらよいでしょうか？

A.

①何かいやなことがあつてやっている場合・・・

本人の気持ちを十分に聞き取ることが大切です。その上で、本児の気持ちに気づくような感情理解の支援とや言葉で相手にどう伝えるかの指導が大事です。

②注目してほしいとやっている場合・・・

冷静にだめなことはだめと伝え、その行動を計画的に注目しないようにしていきましょう。そして、うまく遊べているとき（ひっかいていない・ものを投げていないとき）に注目していきましょう。

③他児との関わりの方法が分からない場合・・・

友達に関わる適切な方法を伝えていきましょう。本児にあったプロンプトを出しながら、出来たときには褒めて行動を強化していきましょう。

Q.

他児に対して手をだしてしまう場合（注意をされた時など）にはどう対応すればよいでしょうか。手がでないような予防的な対応はありますか。手を出したときの対応やフォローの方法が知りたい。

A.

最初の段階では、手を出す行動を制止し、はっきりと注意します。感情的にならずに冷静に状況を把握するようにしたいです。手を出したことを非難するのではなく、どうして手をだしてしまったかを考え、その子の気持ちに寄り添うことでフォローもいれていきたいです。

そして、手を出すのではなく、言葉で気持ちを伝えるように促していきたいですね。手を出すことはだめと伝えることももちろんです。また、クラス全体で注意をする時の言い方・受け取り方などを確認することも予防につながります。

「困ったときは先生が注意するから教えてね」と、注意する役は先生と決めることも一つの方法です。

Q.

ガラスをよく割る子がいました。ガラスを割る感覚を好んでいる面もあり、対応が難しかったのですが、良い対応方法がありますか。

A.

まずは、けがにつながる危険な行為ですので、やめさせましょう。そして、なぜガラスを割っているのか前後を見ることが大切です。

きっかけとして、嫌なことの発散になっている場合には、異なる発散方法を提示していきたいです。

感覚を好んでの可能性だとしても、それ以外の危険ではない感覚刺激に変えていきたいです。

また、われないようにガラスにフィルムを貼るといった環境調整も考えられます。

Q.

一人の先生に対して、甘えと暴力を繰り返してしまう場合、どう対応したら良いでしょうか。

A.

質問の内容から、先生とそのお子さんの信頼関係ができているのだと思われました。

甘えは受け止めながら、暴力に関しては、制限をかける・計画的無視をすることも可能と考えます。

## その他の問題行動

Q.

注意をしても何度も同じことを繰り返してしまう場合、どうしたらよいでしょうか。

A.

何度も繰り返してしまう行動はどういったものでしょうか。その行動の働き（機能）を分析するために、ABC 分析をすると役に立ちます。すなわち、行動の起こる前のきっかけと行動が起こった後の結果を観察します。きっかけや結果が明確でなく、自己刺激行動であるとすると、注意をして行動をなくそうとするのは難しいことと思います。

言われたことをつい忘れてやってしまうなど、指示が覚えておきにくい場合には、繰り返す行動をやめてどうしてほしいかを具体的に伝える、やくそくとして、文章を視覚的に提示しておくといった方法が有効です。

Q.

入園前のお子さん（1～2歳のお子さん）で、言語理解に課題があるような幼児の対応が知りたい。よだれやつばまみれはしょっちゅうで、おもちゃは飲み込んでしまうのではと思うぐらい常に口に入れている。髪の毛や消しゴムのかすも食べてしまう。ブロック・パズルもまずは口の中に入れてしまうので、ブロックとして遊ぶことができない。

A.

口にに入れてしまうことは、発達段階上のことと考えられます。

その上で、考えられる対応方法としては、まずは安全な環境調整を行うことです。たとえば、髪の毛や消しゴムのかすがあれば、すぐに掃除をしておいたり、小さいおもちゃ（飲み込める）は近くに置かないようにしたりすることです。その上で、ものの使い方の方法を教えていってあげることが大切です。遊び方を大人が見せていってあげ、遊びに誘いましょう。その遊びが楽しいと思えば、口にに入れることは減っていくでしょう。



Q.

発達段階ごとに起こりやすい問題行動やその働きかけについて知りたい。

A.

一般的な年齢・発達段階に応じて起こりやすいことはある程度共通しているものがありますし、たくさんの書籍もでておりますが、本講座の中で学んでもらったことは、発達段階や年齢などにとらわれずに行動に注目して対応を考えていくことがポイントでした。そのため、個々に合わせて行動観察を行いながら、対応を考えていってもらえたらと思います。

長期的な視点をもって、問題行動への対応を考えることが大切です。幼少期に困っていたことが年長になると解消することも見られます。一方で、問題行動の起こり方は環境との要請に応じて変化していきます。問題行動への働きかけにおいては、対象児の年齢を考慮しできるだけ社会的に受け入れられやすい方法を考えていきます。